観察から気づいたこと

保育のねらい：身近な植物や虫を観察することを楽しむ。

対象4歳児　作成日：2021年6月14日(月)
作成者：進藤　早苗

保育の振り返り

5月後半より飼育しているカタツムリ。飼い方をみんなで調べながら、観察を楽しんでいます。子ども達が中でも興味を持ったのはうんちの色です。食べた物の色のうんちがでると知り、「今日は何食べているのかな？」「うんちしている？」とどの子も水槽を気にかけ覗き込む毎日。「人参あげてみて」「見て！本当にオレンジだった！」と毎日が発見でした。今ではうんちの色を見て何を食べたかクイズも楽しむようになりました。観察を続けて子ども達が気付いたことは、このカタツムリは人参よりきゅうりが好きなことと、お気に入りの場所があること。それは、子ども達が『先生カタツムリおらん』『逃げちゃったの？』飼育ケースの中を覗きこみますが、子ども達の見ているところにはいません。私が、『見えるところだけでなく、上からも下からも、横からも見てごらん？』と伝えると、友達と協力して水槽を持ち上げながらいろいろいろしていましたが、『上にいたから気づかなかったんだ！』『良かった～』と安堵の声が聞かれました。それからは、『今日も上におるな』『早く降りておいで～』等、居場所を確認しながら以前よりも親しみが増えた気がします。飼育ケースの掃除は私がしていましたが、少しずつ、子ども達もお世話を気にかけてくれるようになってきました。お友達のカタツムリを探したいという声も聞かれます。ある雨上がりの日は、あじさいのお花をみんなで見に行き、葉っぱの裏をそーっと覗いてみたこともありました。身近にあることで、気づいたり発見したりどのようにしたらカタツムリは嬉しいかな？等、子ども達と一緒に生き物の観察をしながら大切にしていきたいです。

(豊かな感性と表現、言葉による伝え合い、協同性、健康な心と体、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重)